

保険でよい歯科医療を大阪連絡会総会記念講演

歯科健康格差の解消へ

相田氏 社会的決定要因への対策訴え

保険でよい歯科医療を大阪連絡会は10月23日、東京医科歯科大学教授の相田潤氏を講師に市民講座「世界が認めた歯の大切さ〜日本人の歯と口の現実」を開き、会場とWEB合わせて74人以上が参加した。

相田氏は、2021年5月の第74回WHO世界保健総会で口腔保健に関する歴史的な決議が承認されたこと、日本では約4000万人が未処置のむし歯を有しているとのデータを示し、年齢の上昇や健康格差が拡大するにつれてむし歯が多くなっていることを指摘した。



健康格差と歯科医療の重要性について学んだ市民講座。10月23日、M&Dホール

いと説明。「口腔の健康・機能状態の悪化は全身の健康へ影響するため、歯の喪失を減らすための対策が重要となる」と強調した。

相田氏は、労働・生活状態など社会的な状況の差で健康格差が生まれる「健康の社会的決定要因」について解説。特に貧困層では健康教育などの介入だけでは改善が難しいと述べた。その上で、むし歯を抑制して健康格差を少なくした小学校のフッ化物洗口の取り組みや、海外の水道水へのフッ化物添加事例などを紹介。「健康保健政策などを通じて社会的決定

要因への働きかけが必要となる」と指摘した。

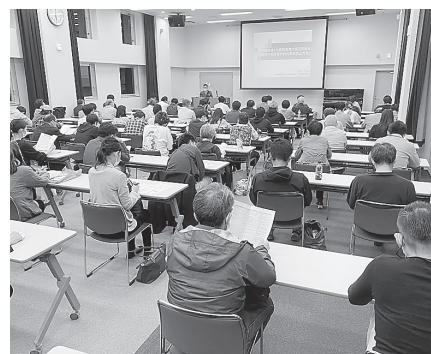
最後に相田氏は、「むし歯予防を家庭の責任だけにしてはならない。国民皆保険制度の下、誰もが受診できるようにする必要がある」と訴えた。

市民講座の前には第13回総会が開かれ、世話人の平野権米氏が取り組みを報告し、今後の活動方針を提案した。▽「保険でよい歯科医療の実現を求め」意見書などの採択を求める要請行動に取り組みすること▽歯科医療機関・歯科技工所への財政措置の要請などが提案され、拍手で承認された。

相田氏の講演をYouTubeで公開中



歯初診研修会開く



石地区 高石・和泉地区のインプラント周囲炎のリカバリを学ぶ

堺・高石・和泉地区は20日、地区臨床講習会を堺市内で開いた。「インプラント周囲炎のリカバリ」をテーマに中島康氏(高石市開業)が講演し、14人が参加した。

中島氏は、「インプラント周囲炎は、プロローピング時の出血、ポケット

大阪大学大学院歯学研究科 歯科麻酔学教室 教授 丹羽 均

歯科治療が好きでたまらない人は、まずいないでしょう。多かれ少なかれ歯科治療は我慢の対象です。処置に伴う痛みはもちろんのこと、歯を削る時の振動や音、あるいは臭いや味が嫌いな人もいます。また、長時間の開口に耐えられない人、絞扼反射の強い人もいます。

これらのストレスを抑え、歯科治療を快適に受けていただくための方法がいくつか考案されています。その一つが静脈内鎮静法です。静脈内鎮静法では、静脈路を確保し、そこから鎮静薬を少しずつ投与方法で、最近では、内視鏡の処置でも頻用されています。

安全で快適な歯科治療 - 静脈内鎮静法の応用 -

がなくなり眠ってしまう状態(深鎮静)まで作り出すことができます。歯科治療中の記憶をなくすることも可能です。近年、調節性の良い鎮静薬が登場し、静脈内鎮静法の質が飛躍的に向上しました。

静脈内鎮静法の管理において、一番重要なのは、鎮静状態の把握です。鎮静状態が深くなりすぎると、呼吸に影響し、気道閉塞や呼吸抑制に陥ってしまいます。さらに歯科治療中は、治療に適した頭位、切削時の注水、開口などが気道管理に大きく影響します。

簡便で信頼性の高い指標

歯科麻酔科医は、多くのモニタを用いて鎮静深度を把握します。血圧や心電図、パルスオキシメータはもちろんのこと、BISモニタと脳波を解析し、鎮静度を評価したり、カプノメータを用いた換気の状態も把握します。上気道閉塞に伴ういびきの音を検知するアコースティック呼吸数モニタリング装置(RRa)もあります。

場合によっては、血圧・心拍変動解析を行い、自律神経の交感/副交感神経のバランスを確かめることも可能です。

これら多くのモニタから得られる情報をどのように統合すれば、簡便でより信頼性の高い指標となるかを研究し、歯科治療における安全で快適な静脈内鎮静法の応用を目指しています。

多様性社会へ行動を

10・2学習交流会に参加して

女性医師・歯科医師の会は10月2日に学習交流会「福祉・医療から考える女性と憲法」を開いた。講師は、憲法学者の志田陽子氏(武蔵野美術大学造形学部教授)が務めた。同会の玉川尚美世話人の感想を紹介する。



世話人・玉川尚美

「総枠拡大」の運動推進では、戸井氏が75歳以上の窓口負担2倍化問題について文書発言。物価高騰や年金の引き下げで高齢者の生活状況が悪化していることを指摘し、「受診中断や受診控えが起る」と強調。来年から始まる保険で良い歯科署名を上げ、「お金の心配をせず、いつでも誰でも安心して歯科治療を受けられる社会を実現させたい」と訴えた。

マイノリティーに対するバイアスは社会に根強く存在し、時代を経てなお再生産されている。講演で志田氏はジェンダーや人種、多様性の問題を

静脈内鎮静法時の各種モニタ (イメージ)



血圧計、心電計、パルスオキシメータ、BISモニタ、カプノメータ、RRaが装着されて、その値がモニタ上に集約されている。

静脈内鎮静法では、鎮静薬の投与量を調節することにより、なんとなく落ち着いてリラックスした状態から、意識

反対世論高め撤回運動を

オンライン 義務化・保険証廃止などで発言 資格確認

診療報酬の改善運動や歯科医療改革提言の策定を議論する保団連第17回歯科全国交流集会在10月30日に東京都内で開かれた。ウェブとあわせて全国から106人が参加し、歯科医療充実へ「患者・国民と手を携えながら、要求実現のために全力を挙げるとした決議を採択した。

保団連歯科全国交流集会

大阪歯科からは小澤力理事長、戸井逸美・平尾清司両副理事長、江原豊理事が出席。玉川尚美理事が集会の司会を務めた。

基調提案「歯科医療を取り巻く状況」についての討論では、平尾氏がオンライン資格確認の原則義務化問題と健康保険証の廃止問題について発言した(写真)。マイナン

人情報がプロフィールリンクに利用される異次元の危険性を指摘。マイナンバー制度そのものへの反対世論を高めるなかで、撤回運動を進めようとした。

歯科医療改革提案案に対する討論では、江原氏が文書発言で「歯科医療費総枠拡大をめざす提言の趣旨に賛同する」と表明。その上で、金バラや歯科技工問題などの政策課題が山積していることを指摘。会員の声を提言に反映させるために、▽政策課題ごとの提言策定検討委員会(仮称)の設置▽会員を対象にしたア

本化では、あらゆる個